

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立山代中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上・・・少人数やTT、話し合い活動の実践等で一定の成果がみられるものの個人差が大きい。授業改善に取り組み、困り感を抱えている生徒への学習満足度の向上と家庭でのデジタル学習の推進を図っていく。 ・心の教育・・・全教職員で道德教育の実践を行い、いじめの予防、生徒理解に努めた。生徒のやる気を引き出し、前向きに取り組む気持ちやコミュニケーション力と人間関係調整力の育成、教育相談活動のさらなる推進が必要。 ・健康・体づくり・・・就寝時間、朝食の摂取で生活のリズムをつくり、スマホ・SNSの使用時間や生活習慣を自己管理する力を身につけさせるようにする。		
2 学校教育目標	心豊かでたくましく、志をもつ生徒の育成 ～ 自己肯定感・自己有用感の醸成「褒めて・認めて・伸ばす」 ～		
3 本年度の重点目標	「確かな学力の育成」・・・ICTを効果的に活用し、話し合い活動が深まるような授業改善と校内研究の推進。発信力の育成。 「豊かな心の育成」・・・道德教育、人権教育の充実。コミュニケーション能力と人間関係調整力の育成。教育相談の充実。 「健やかな体の育成」・・・食育の推進、病気（感染症）の予防、体育的活動の充実。 「教育相談・生徒指導の充実」・・・開発的生徒指導による自己肯定感・自己有用感の醸成、いじめの早期発見・早期対応、関係機関との連携。 「地域とともにある学校づくりの推進」・・・学校からの情報発信（お便り、メール、HP）。コミュニティスクールの推進。 「家庭と学校との連携」・・・相談体制の確立、「山代っ子の約束」の実践と啓発、PTA活動の促進。 「小中連携の推進」・・・教育相談体制の充実、情報共有による生徒理解。相互の授業参観。 「働き方改革の推進」・・・組織的な業務遂行の推進、ICTの活用、会議の精選。		

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○ものの見方を養い、「考える・判断する・表現する」力をつけるための授業改善	○相乗効果を生む話し合い活動の実践に取り組んだ教師90％以上。 ○自分の考えを十分に相手に伝え、説明できる生徒80％以上。	・焦点を明確にし、分かりやすい授業づくりと全職員が授業研究会、相互参観を行う。 ・言語活動を通して、対話学習や協働活動による課題解決学習を取り入れた授業づくりを行う。							学力向上Co./研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道德の授業において「自分のことに置き換えて考えることができた」、「相手の立場を考えてコミュニケーションをとっている」生徒の割合が80％以上。	・学年職員でローテーションを組み、授業実践を行い、相互に参観し評価を記録する。 ・自分の意見を深めるために、授業の中での意見交換や共有など、多様な意見に触れる場面を設定する。 ・道德ファイルを学期末に家庭へ持ち帰り、保護者に目をとってもらうことで、家庭で考えを深める場を作る。							道德教育推進教師	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活満足度の肯定的回答率が80％以上。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答する教師100％。	・毎月のアンケートの実施と迅速な事後対応及びそれに関する職員の情報共有を徹底する。 ・スズキ校務への記録をこまめに行い、職員がいつでも情報共有できる体制づくりを整える。							生徒指導主事／教育相談	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、地域を誇りに思い、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75％以上。	・生徒一人ひとりの出番や活躍の場を積極的ににつくり、その頑張りや善行を積極的に褒め、学級活動や職員間で共有する。 ・キャリア教育や講演会等を通して、社会とのつながりや将来への希望や期待を感じさせるような進路学習を考え、充実させる。							特別活動	
	○生徒指導における共通理解と共通実践 ○いのちの尊さや心を育む教育の推進	○規律・礼儀・言葉遣い・節度・マナー等について、その場で適切に指導している教師100％。 ○「学校で命や生き方について考える機会がある」の肯定的な回答が90％以上。	・生徒に求める規律や礼儀について些細なことでも共通理解をし、職員が同じ基準で指導に当たる。 ・学校行事や講話を通して、いのちの尊厳や自己実現に向かうための生き方について考えさせる。							生徒指導主事	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○山代っ子ウィークにおいて、「山代っ子の約束」のスマホ・SNSの使用が2時間以内または21時までを1日でも守れた生徒70％以上。 ○授業以外で週に1回以上運動している生徒を生徒80％以上。	・PTAや家庭との連携を図りながら、スマホ・SNSの利用の仕方について啓発を行う。 ・学期末に運動習慣に関するアンケートを実施する。							生徒指導主事／体育主任	
	○食に関する自己管理能力の育成と食育の推進	○健康と食、体と心の関連について理解し、「健康に食事は大切」と考える生徒85％以上。 ○朝食の喫食率80％以上。	・食育講話などを通じて食の重要性についての意識を高める。 ・食事のマナーや給食をしっかりと食べる習慣などを身につけさせる。 ・早寝・早起き・朝ごはんの徹底。							食育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・学年対応や学校行事等における業務内容の精選と校務分掌の分担化を企画で検討する。 ・各自月1回の年休取得と本人及び家族の誕生日等での年休取得1回。							教頭	
	○業務遂行における教職員の連携と情報共有	○「教職員各自の専門性や経験を共有しながら学年や部会の業務にあたることができた」の質問に対し肯定的な回答70％以上。	・OJTの推進と情報共有の時間の確保、連絡体制の強化。週2回の学年会の実施。 ・管理職・学年主任を中心として協働意識の醸成を働きかける。							教頭	
●特別支援教育の充実	○職員研修と生徒理解 ○教師の専門性と意識の向上	○生徒理解に努め、個々の生徒の課題や生徒理解に基づいた指導支援ができたと答える教師80％。	・教育相談部、生徒指導部と連携し、定例の特別支援委員会を開催し、情報共有と支援の在り方を確認する。 ・必要に応じてSC・SSW、関係機関と連携する。 ・生徒個々に応じた支援方法について研修し、特別支援教育に対する見識を深める。 ・「LITALICO教育ソフト」を利用し、一人ひとりに合わせた多様な学びの場の整備や切れ目ない支援の充実、特別支援教育の専門性の向上を目指す。 ・職員にアンケートを実施する。							特別支援Co.	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
◎自己肯定感の醸成と自己実現に向かう態度の育成	◎キャリア教育・進路学習の充実 ○自治力を高める行事・集会の取組 ○自己の個性を伸ばし、自己肯定感を高め社会性を身に付け自己実現を目指す開発的生徒指導の実践	○目標をもって意欲的、主体的に諸活動に取り組んだと回答する生徒80％以上。 ○学級の中で自分の出番や役割があると回答する生徒80％以上。	・話し合い活動の充実により、課題解決や企画運営の力を養う。 ・体験活動、生徒会活動、各種実行委員会等を推進し生徒の活動の場を設定する。							進路指導主任/キャリア教育	
○教育相談の確立	○教育相談の充実、関係機関との連携・協力強化により安心して登校でき落ち着いた学べる学校づくり	○前年度に不登校として報告した11名の中で、何らかの改善傾向がみられた生徒7名以上。 ○毎日の「心の健康観察」入力率80％以上。	・不登校生徒や家庭をチームでサポートするためのケース会議の実施。 ・心の健康観察でのコメントを確認し、毎日の書き込みの中で変化等に注視する。(特に前日トラブルなどがあった生徒)							教育相談	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育